

南京大虐殺事件82周年 12・13南京一平和のための国際交流



歴史の事実から学び、平和を希求していこう



12月12日～15日、「南京大虐殺事件82周年 12・13南京一平和のための国際交流」として5名が参加しました。



夕食懇親会において黄館長(左から3人目)と共に

12日に虐殺記念館が主催する夕食懇親会へ参加し、13日に行われる追悼式典に向けて、日本をはじめとして韓国など数カ国の参加者約120名で歴史の事実を踏まえ世界平和に向けて懇親を深めました。

13日の追悼式典は、8000名にも及ぶ規模で開催されました。冒頭、中国国歌の斉唱が行われたのちサイレンが鳴り響く中、参加者全員で犠牲になった方々へ黙祷を捧げ、平和の象徴である鳩が青空に放たれ式典は約1時間で終了しました。

その後、戦時中に20万人もの中国難民を救った南京安全区国際委員長だったドイツ人のジョン・ラーベの旧居・資料館を踏査しました。この資料館では、中国難民に医療の提供や無料で食事を提供した活躍を知ることができ、人間の命の尊厳を踏みじった日本軍との乖離を学ぶことができました。

午後には、虐殺記念館を見学し、折り重なって亡くなった方々の遺骨を目的の当りにして日本軍が行った

悪行の数々が事実であることをあらためて実感しました。日本政府はこの現実を無視し、南京大虐殺はなかったかのように言い繕いますが、この現実から意図的に目をそらし新たに「戦争をする国」へ突き進んでいくことは断じて許せません。参加者も歴史の事実に向き合い、現在の日本が進んでいる戦争への道を許さないたたかいをつくり上げることが誓いました。

その後、戦時中に父親・兄を日本軍に殺された石秀英さんより当時の状況を話して頂きました。つらく厳しい過去をこれからの平和に向けてと、涙ながらに話してくれる姿を見て、参加者も涙を流しながら聞き入っていました。石さんご家族も参加してくれ、私たちに對して「あなた方の子供達はこのような歴史の事実を知っているのか」と問われ、日本の教育では南京大虐殺はなかったように教育されているが、自分たちが真実を伝えなくてはならないと決意を込めて返答してきました。

「平和」な日本に在るだけでは感じることができない、戦争の悲惨さや残虐さ、人間が人間性を失う事実を一人ひとりが自分の目で見て心で感じる必要があります。このような悲惨な歴史の事実を目の当たりにし、それぞれが現在の日本が進む方向へ断を下せる仲間づくりを心に誓い合ってきました。そして、現在の組織状況の中でやむを得ず「平和運動は必要ない」という組合員に對



涙ながらに話をしてくださった石秀英さん(前列左から2人目)

14日には、「侵華日軍南京大虐殺草鞋帳 避難同胞紀念碑」を見学しました。



南京利濟巷慰安所旧跡陳列館

た。当時、日本軍により捕虜とされた方々を大虐殺した場所に立ち、日本軍の愚行に怒りを新たにし、命を失った罪もない方々に心から謝罪をしてみました。

その後、南京利濟巷慰安所旧跡陳列館を訪れ、日本兵のために慰安婦とされ、苦しめられてきた女性の生涯を学んできました。自分の家族に置き換えれば、耐えられない苦痛を参加者は涙をこらえ胸が苦しくなる思いで見学しました。虐殺により大切な命を奪われた方々、そして生きながら人も人間の尊厳を奪われ続けた方々の苦しみは、言葉では言い表すことはできませんが、これらの歴史の事実から戦争の真の恐ろしさを実感しました。

しても、自分たちが経験してきた真実を伝え、現在の日本の情勢を真摯に訴えることで理解を求める実践を各本で行うことも確認しました。

戦争の悲惨さを歴史の事実から学び、時の権力者によって犠牲となるのは女性・子ども、労働者という弱い立場の者であること、民主主義であるこの時代に政治への関心度を高め、労働組合として平和を希求する重要性など、現在へ活かしていく活動の強化をあらためて決意することができました。

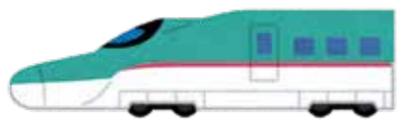
14カ国の仲間が集まり 連帯を強化していくことを確認!

11月22日～23日にタイ・バンコクにおいてICLSタイ労働フォーラム2019が「労働者と労組の未来」をメインテーマに開催されました。14カ国から約100名の労働者の仲間が参加し、JR総連として12名が参加しました。

その中で、JR北海道労組の中井組織・教宣部長が「地域公共交通、地域社会の維持」について、これまでの活動の報告と成果、今後の課題について提起し、議論をつくりました。

また、各国の共通の課題である「青年労働者の組織化への挑戦」のセッションでは、山口委員長と湯ノ目情宣部長が青年労働者と女性労働者の組織化に関して発言しました。そ

2019年4月に新幹線統括本部が発足し、組織形態が変更となりました。そのような中においても、各職場で2019年3月のダイヤ改正以降、検証を行ってきた。職場からは乗務員勤務制度の見直しにより「拘束時間が延びてきつい」「ゆとりがない」などの現実があげられています。その組合員の声を基に申し入れをし、現場の組合員が「安全・健康・ゆとり・働きがい」を実感できるダイヤ改正をめざして団体交渉を行いました。



2019年度上期会計監査終了

11月27日～28日に本部会計・共済部会計、営業部会、きかく部会の会計監査が行われました。緊縮財政の中、不正の事実はなく、良好に執行・整理されていることが確認されました。

幹本申1号 「2019年3月ダイヤ改正」に関する 検証申し入れ団体交渉を行う(12月11日)

7支社をまたぐ広範囲に及ぶ新幹線統括本部であり、各系統の連携がなければ安全・安定輸送の確保は成し得ません。これからも、全組合員の声を基にした新生JR東労組運動を展開していかなければなりません。

JR東労組新幹線協議会と連携して組合員と共に運動をつくり、新幹線統括本部との議論を組合員と共につくりていきます。



タイフォーラムに参加した女性労働者の仲間たち

して「低賃金化、低コスト化に挑む」のセッションでは高橋業務部長が、技術革新が進展する中における安全と雇用に関して発言しました。

今回のフォーラムの大きな特徴として、女性労働者が増えてきていることから「職場での女性に関する課題点をめぐる組織化」というセッションが設けられ議論を行いました。

国が違っても男性主体の交通運輸産業において、トイレや寝室などの女性設備に関する問題は未だにあり、労働組合として改善していかなければならないことが議論されました。そして、女性組合員が意見を言える場と、意志決定できる立場を作る必要があることが出

されました。

2日目の夜には、さよならパーティーが催され、タイの仲間によるバンド演奏などでパーティーを盛り上げてくれました。お互いに「言葉の壁」を乗り越えて、楽しく食事をし、酒を酌み交わし、ダンスをするなど交流を深め「来年のフォーラムでまた会いましょう」とお互いに頑張りましょう」と各国の仲間と確認できたパーティーでした。

各国の事情や政治課題に違いがある中で議論となりましたが、2日間通して活発な議論が行われました。そして、労働者の権利と利益を守り、安全で安心して暮らせる社会をめざし奮闘していくことを確認しました。また、交流を深めることができ、労働者としての連帯を強化することができました。